

## 再評価結果（平成31年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局 環境安全・防災課  
担当課長名：野田 勝

事業名	空港・港湾等アクセス道路 主要地方道 <sup>ひかりやない</sup> 光柳井線 <sup>にじがおか</sup> 虹ヶ丘工区	事業区分	地方道	事業主体	山口県
起終点	自：山口県 <sup>ひかり</sup> 光市 <sup>あさえ</sup> 浅江 至：山口県 <sup>ひかり</sup> 光市 <sup>にじがおか</sup> 虹ヶ丘			延長	0.7 km
事業概要	<p>主要地方道光柳井線は、国道188号と並行して下松市との境から光市街地を通過し、柳井市へ至る幹線道路である。また、当該区間は、住宅団地や光駅周辺を通過する都市内の生活道路としても重要な役割を担っている。</p> <p>しかしながら、当該区間が未整備であることから、幹線道路としての機能を発揮出来ず、国道188号の市街地部や周辺の市道へ交通が集中し、通行に支障をきたしている。</p> <p>このため、国道188号に接続する当該区間を整備することにより、交通を分散させ、安全で円滑な交通を確保するとともに、周南地域の産業集積地や商業施設、第3次救急医療施設「徳山中央病院」等へのアクセス性向上を目的としている。</p>				
H27年度事業化	H29年度都市計画決定	H29年度用地着手	H29年度工事着手		
全体事業費	約38億円	事業進捗率	10%	供用済延長	0 km
計画交通量	9,400台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 1.3	総費用 (残事業)/(事業全体) 31/31億円 事業費：29/29億円 維持管理費：1.8/1.8億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 41/41億円 走行時間短縮便益：36/36億円 走行費用減少便益：5/5億円 交通事故減少便益：0.1/0.1億円	基準年 平成26年	
感度分析の結果	<p>(事業全体) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C=1.2~1.5(交通量±10%)          事業費：B/C=1.2~1.5(事業費±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5(事業費±10%)          事業期間：B/C=1.3~1.4(事業期間±20%) 事業期間：B/C=1.3~1.4(事業期間±20%)</p>				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山陽自動車道熊毛ICと国際拠点港湾徳山下松港等とのアクセス性を高めることで、物流コストの低減、産業力の強化が期待できる。</li> <li>・当該区間の整備に合わせて、国道188号の護岸かさ上げを行うことで、波浪時の安全な通行が確保される。</li> <li>・JR山陽本線より北側の地域から第三次救急医療施設「徳山中央病院」への搬送時間短縮による救命率の向上が期待できる。</li> </ul>				
関係する地方公共団体の意見	<p>地元自治体である光市や光商工会議所から道路整備の要望が寄せられており、事業の推進にあたっては協力体制が整っている。</p> <p>当該区間は市議会において早期整備の要望がとりあげられるなど、地元の期待が高い。</p>				
事業評価監視委員会の意見	-				
事業採択時より、再評価実施時までの周辺環境変化等	-				
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>用地取得率：約95%、事業進捗率：約10%</p> <p>護岸工、橋梁工の進捗を図り、早期完成を目指す。</p>				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>残る用地取得を継続するとともに、早期開通を目指し、改良工事を推進していく。</p>				

施設の構造や工法の変更等

今後も工事コストの縮減等、総コストの縮減に努めていく。

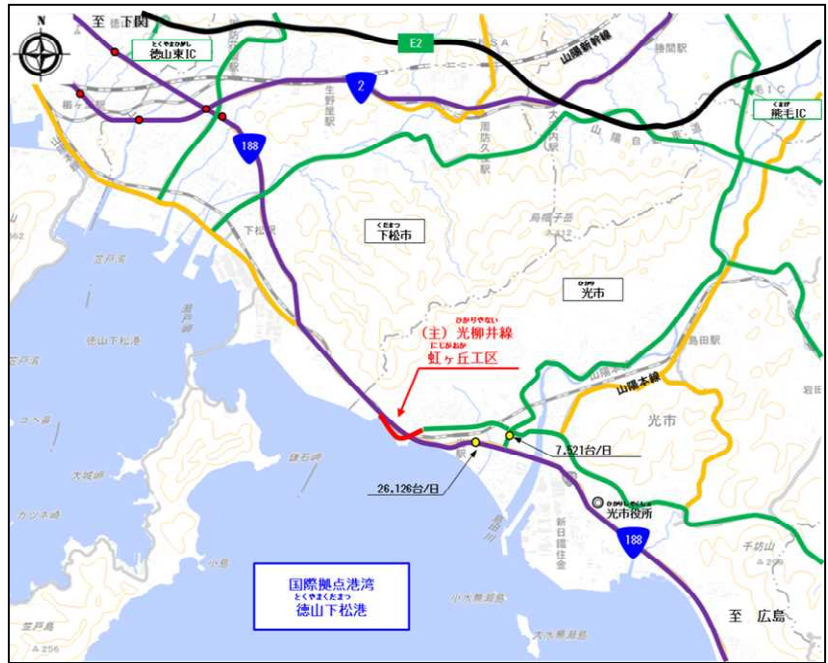
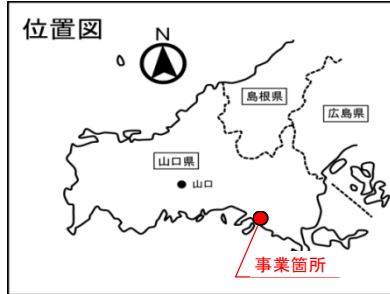
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案し、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。